



2025年3月4日
東日本旅客鉄道株式会社

鉄道ネットワークを活用した荷物輸送サービス「はこびゅん」を事業化し様々な社会課題解決に貢献します ～新幹線荷物専用車両による高速・大口輸送を実現します～

- JR 東日本グループは、新幹線での高速・多量荷物輸送をはじめ、鉄道ネットワークを活用した新たな輸送網を構築し、Suica 経済圏における利便性を更に高められるようサービスを拡充し、取り組みを通して、「物流業界の人手不足問題」や「CO₂ 排出量削減」「地方創生」等、社会的課題を解決するため、様々なトライアルを重ねてきました。
- これまでの全ての新幹線において展開してきた駅間での小口輸送を着実に拡大させるとともに、在来線を含めた各方面への更なるネットワークの強化、受付・予約のシステム化によるタイムリーなサービス提供、そして高速・多量荷物輸送の事業化により、JR 東日本グループ全体で年間 100 億円規模の収益獲得を目指します。
- 2025年4月18日から新青森・東京間で客室を使用した車両貸輸送を開始することに加え、E3系新幹線1編成の全号車を荷物輸送専用車両として改造に着手し、2025年秋には車両基地を活用した盛岡・東京間での輸送を開始します。新たな物流ネットワークの構築により、JR 東日本グループだからこそ展開できる新たなライフスタイルを提供します。

1. 概要

鉄道ネットワークを活用した荷物輸送サービス「はこびゅん」は、JR 東日本が運行する新幹線や在来線特急等と、荷物の積み下ろしや車内での管理などを JR 東日本グループ企業が一体となり、グループで培ってきた列車輸送のノウハウを生かしてお客さまからお預かりした小口から大口のお荷物まで、高度な品質で輸送しています。また、事前予約不要で、荷物 1 個から、列車出発の 30 分前まで申し込み可能な「はこびゅん Quick」サービスを実施しています。

今回、営業列車の客室や荷物輸送専用車両を活用した大口荷物の定期輸送サービスを開始し、順次ネットワークの拡大等により、さらに荷物輸送ニーズにあった新たな物流サービスを提供し、社会課題解決に貢献していきます。

(1) 輸送対象

北海道・東北・秋田・山形・上越・北陸の各新幹線、在来線特急及び在来線

(2) 輸送単位

1 箱単位の小口から大口輸送まで ※今回、東北新幹線の 100 箱単位事業化に着手

(3) 輸送料金（基本）

① はこびゅん

法人向け輸送（事前に契約締結が必要） ※今回、大口・車両貸の事業化に着手

	5 箱以下	6 箱以上	一室貸(40箱程度)	大口・車両貸(※)
①新幹線	3,300 円/箱	2,200 円/箱	61,600 円/1 室	104,500円~/1 車両
②特急・在来線	1,650 円/箱	1,100 円/箱	—	—
①+②トランジット	4,950 円/箱	3,300 円/箱	—	—

※ご契約先は(株)ジェイアール東日本物流(以下、JR 東日本物流)です ※料金は税込み表示です ※1箱は3辺合計 120 cm程度を想定

※ファーストマイル・ラストマイル分は含みません ※上記料金を基本とし、荷量や頻度、輸送区間などに応じて変動します

※大口・車両貸は E5 系新幹線 1 号車を利用の場合 ※大口・車両貸は 2025 年 4 月 18 日からの大口定期運行サービスの想定料金です

② はこびユンQuick

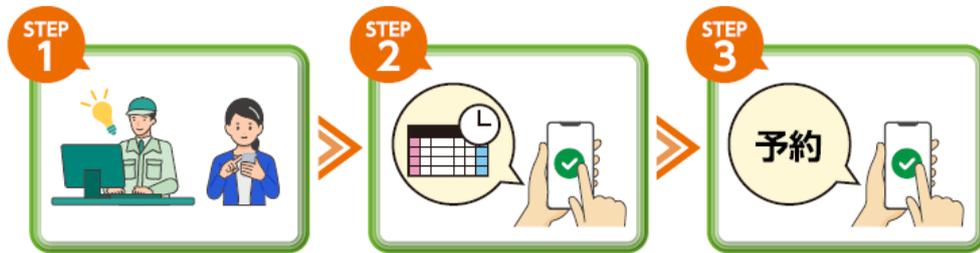
法人・個人向け輸送（事前予約不要。直接駅カウンター持ち込み）

サイズ	1号	2号	3号	4号	5号
3辺合計	～60cm	～80cm		～100cm	～120cm
重量	～3kg	～6kg		～12kg	～30kg
輸送料金	1,010円	1,330円		2,190円	4,450円

※ご契約先は JR 東日本物流です ※料金は税込み表示です。

（４） 予約・受付方法など

これまでの商談や電話・メール等による輸送列車の予約・受付から、今後、法人向けは 2025 年 4 月より、個人向けは 2025 年度内に JRE MALL の予約システムを活用することにより利便性を高め、事業運営主体である JR 東日本物流をオペレーションの軸として、予約受付から荷物の積み下ろし、他の物流企業等とのファースト・ラストワンマイルまでトータルコーディネートします。



（５） 輸送実績

これまで鮮魚や農産品等の地産品、精密機械部品や医療用品など多数輸送しています。



鮮魚



農産品



精密機械部品



医療用品

（血液製剤・医療用検体・ワクチン等）

（６） 社会的課題解決への貢献

直面する「物流業界の人手不足問題」や「CO₂ 排出量削減」、「地方創生」等、社会的課題を解決していきます。

社会的課題解決への貢献効果	トラック	鉄道	
トラック運転手問題 （ドライバー拘束時間減）	12,958 時間	2,190 時間 （▲10,768 時間）	※ 新青森→東京の約 700 km で新幹線車両 2 両分約 4t 分の輸送を 1 年間トラック 1 台から新幹線とファーストマイル・ラストマイル輸送にシフトした場合を想定し実拘束時間を試算 ※ 青森市内集荷、東京都内納品の場合で、積み下ろし各 0.5 時間、集荷（納品）箇所・新幹線駅間移動 1 時間、都市間移動 8.5 時間（休憩除く）、インターバルを 11 時間と想定。
CO ₂ 排出量 （環境負荷低減）	212t	20t （▲192t）	※ 新青森→東京の約 700 km で新幹線車両 2 両分約 4t 分の輸送を 1 年間トラック 1 台から新幹線にシフトした場合を想定すると、CO ₂ 排出量としては年間約 192 t、約 74 世帯分の削減が可能。

※ 営業用貨物車と鉄道貨物との比較

※ 国土交通省「自動車輸送統計年報」「運輸部門における二酸化炭素排出量」、環境省「令和 4 年度家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査」、野村総合研究所「持続可能な物流構築に向けた新幹線活用の可能性」より数値等引用し、当社にて試算

2. 輸送サービス・ネットワークの拡大展開

これまで、主に始発終着駅間かつ列車限定での輸送を行っていましたが、今後、途中駅での取り扱いも含め新幹線全列車に対象を拡大し、大口輸送に関しては東北エリアから首都圏へ土休日を除く毎日輸送を行います。また秋田・山形・上越新幹線など各方面、そして特急電車等を含め「はこびユ」ネットワークを拡大し、輸送サービスを展開します。

(1) 新幹線荷物輸送の大口定期運行サービス (東北新幹線 新青森駅・東京駅間 2025 年春開始)

2024 年度の多量輸送事業化検証結果等を踏まえ、現行の数箱から 10 箱単位の輸送サービスから、より多量かつ定期的な輸送サービスを開始します。将来的に、上越新幹線ほか対象線区・区間の拡大を図ります。

運行日： 毎週金曜日の定期運行を開始 (4 月 18 日 (金) ～)

※輸送日の 7 営業日前まで申し込みいただけます

※金曜日以外の輸送にも今後柔軟に対応

輸送列車： 東北新幹線 臨時列車 はやぶさ 50 号 (E5 系 10 両編成)

輸送区間： 新青森駅 8:29 発 → 東京駅 11:44 着

輸送形態： 荷物輸送：1～2 号車、旅客発売：3～10 号車

(普通車指定席：3～8 号車、グリーン車：9 号車、グランクラス：10 号車、TRAIN DESK 設定あり)

荷 量： 最大 200 箱程度

<輸送イメージ>



(2) 定期運行化に向けた車両改造等 (東北新幹線 盛岡・東京間 2025 年秋開始予定)

E3 系新幹線 1 編成の全号車を荷物輸送専用車両として改造(床面フラット化)します。2025 年秋の東北新幹線盛岡・東京間上り列車での平日定期運行を皮切りに、車両基地を活用[※]した 100 箱単位、最大で 1,000 箱程度のさらなる大口輸送を定期化します。

※関係当局と調整中です。

※運転日は、臨時列車運転や車両定期点検等により変更の場合があります。

※荷量は荷姿・サイズにより変動します

※運行時は E5 系「やまびこ」と連結する予定です。正午前に盛岡新幹線車両センターを発車、午後には東京新幹線車両センターに到着するダイヤを検討中です。



《E3系新幹線改造車両のイメージ》

(編成概略図)



(車両内のイメージ)



《車両基地のイメージ》



《はこびネットワークとこれまでのトライアル実績など》



※北海道新幹線(新青森・新函館北斗間)及び北陸新幹線の一部区間(上越妙高・敦賀間)はJR北海道、JR西日本の営業エリアです



途中駅(大宮駅 15・16 番ホーム)での荷下ろし



車両センターでの積み込み



客室内への積載

3. 目指す姿と新たなライフスタイル

新たな物流サービスの構築により、はこびネットワークにおいて「その日のうちにすぐ運んでほしい」という迅速性・速達ニーズに応えていきます。さらに、航空機との連携により海外にもサービスを拡大していきます。

これにより、

- ① 農水産業や工業の生産地と東京などの消費地を結びつけることによる地方の産業振興
- ② ①を通じた地域の魅力発信による観光流動の創出
- ③ 血液製剤や医療用検体などの医療品の確保や機械部品調達のサプライチェーンのDX化の課題への対応などの取り組みを通して、地方創生やドライバー不足、環境負荷軽減などの社会的課題にも対応していきます。

<日本郵政グループ等との協業>

2024年2月に当社グループと日本郵政グループとの間で「社会課題の解決に向けた連協強化」に関する協定を締結しております。その中で、持続可能な物流の実現を掲げ、両社で「物流のリ・デザイン」の実現に向けて検討を進めております。サステナブルな物流ネットワーク確立に向け、引き続き日本郵政グループとも連携の深度化を図って参ります。



<ネットワークの拡大による新たなライフスタイル（イメージ）>



※本プレスリリース内の画像・イラストはすべてイメージです

別紙

新たな物流による新たなライフスタイルサービス展開事例

サービス名等	概要	
<p>・はこびyun Quick のネットワーク拡大</p>	<p>事前予約無しでご利用いただける「はこびyun Quick」カウンターを順次拡大することで、「お近くの新幹線の駅から、その日のうちにすぐに届けたい」ニーズにお応えします。 <現在のサービス区間> 盛岡駅・仙台駅・新潟駅・長野駅・金沢駅 ⇔ 東京間</p> <p style="text-align: right;">※2025年3月4日現在</p>	
<p>・手荷物輸送サービス (JRE 手ぶら旅)</p>	<p>ホテルチェックアウト時などに手荷物をカウンターに預け、ゆっくり観光を行った後、当日中に東京駅の指定手荷物預かり所でお受け取りいただけるホテル宿泊者向け「手荷物輸送サービス」の他、一部駅のカウンターから東京 23 区及び浦安市内のホテルにお荷物をお届けする「当日ホテル配送サービス」、また仙台駅 BAGGAGE STORAGE+ でお預かりしたお荷物を当日中に東京駅構内のロッカーで受け取る「当日ロッカー受取り配送サービス」などのサービスを展開しています。</p>	
<p>・多機能ロッカー「マルチエキュブ」との連携</p>	<p>事前に専用サイトにてご予約いただくことで、対象のロッカーに荷物を預け入れていただくと当日にご指定いただいたホテルで受け取れるサービス（ロッカーホテル即配サービス）と、対象のロッカーに宅配荷物を預け入れ、お客さまがご指定いただく場所にお届けするサービス（ロッカーどこでも配送サービス）を展開しています。</p>	
<p>・ゆうパック × はこびyun による輸送連携 (日本郵政グループとの連携)</p>	<p>「はこびyun」と「ゆうパック」のネットワークを組み合わせ、地方の特産品を首都圏へ輸送し、ホテルや小売・飲食店での販売や産直市等を展開。物流問題の解決とともに、地方のファンの創出や地域産業の維持・振興など、地域活性化につなげる取り組みを行っています。</p>	
<p>・新幹線を利用した貨物輸送サービス「NX スーパーエクスプレスカーゴ」(日本通運株式会社との連携)</p>	<p>NX グループの物流ネットワークを活用して集荷から配達まで一貫輸送を行い、CO₂排出量の削減や 2024 年問題に起因するトラックドライバー不足など物流課題の解決にも貢献します。</p>	

参考

<他企業と連携した新たな物流への取り組み>

JR 東日本物流をオペレーションの軸としながら、他の物流企業等と連携した新たな物流の検討を行っています。

【これまで連携した企業等】



SAGAWA

佐渡汽船株式会社

ANA



JAPAN AIRLINES

NEX NIPPON EXPRESS



メディセオ



ヤマト運輸



JRバス関東

<様々な品目の輸送>

地方の特産物（農産品・漁業品 等）から精密機械部品や引越し家財、医療用品等の緊急配送に至るまで幅広く、かつ少量からより多くの荷物まで様々な品目について、迅速に輸送するニーズにお応えしてきました。

【これまで輸送した商品、連携した企業等】



鮮魚



黒崎茶豆



ひまわり



洋菓子



和菓子



日本酒



シャインマスカット



クインルージュ



アップルパイ



牛乳パン



いちご

など

JF 青森漁連

KASUMI



国分グループ



株式会社 JR 東日本商事

<「はこびュン」について>

速達性・定時性に優れ、環境にも優しいという鉄道の強みを活かし、JR 東日本グループが展開している荷物の輸送サービスです。鉄道によって地域とモノをつなぐことで、地域の魅力発信を行い、人々の豊かな暮らしづくりや社会課題の解決に向けて取り組んでいます。今後の新たなサービス等の詳細については、別途お知らせいたします。

「はこびュン」の具体的なサービス、お申込み方法については株式会社ジェイアール東日本物流のホームページをご参照ください。
<https://www.jrbutsuryu.jreast.co.jp/business/shinkansen.html>

(参考) 第 1 回多量輸送トライアル 2023 年 5 月 17 日 ニュースリリース

https://www.jreast.co.jp/press/2023/20230517_ho01.pdf

(参考) 第 2 回多量輸送トライアル 2023 年 8 月 9 日 ニュースリリース

https://www.jreast.co.jp/press/2023/20230809_ho01.pdf

(参考) 第 3 回多量輸送トライアル 2023 年 9 月 21 日 ニュースリリース

https://www.jreast.co.jp/press/2023/20230921_ho02.pdf

(参考) 第 4 回多量輸送トライアル 2024 年 2 月 29 日 ニュースリリース

https://www.jreast.co.jp/press/2023/20240229_ho02.pdf

(参考) 高速・多量輸送の事業化検証 2024 年 7 月 8 日 ニュースリリース

https://www.jreast.co.jp/press/2024/20240708_ho01.pdf



即日お届け列車便